

三年、西鉄ライオンズの三連覇の年に、普通科一九九名、商業科二四六名は希望に胸を膨らませて勇躍卒業しました。以来四十二年経過した平成十一年、遂に六十才となり福原を退えてしまったのです。

奇しくも今年ダイエーホークスが優勝したのも何かの縁でしょうか。

今年に入り小学校、中学校と様々な記念同窓会が企画・案内される中、我々幹事一同では「流石に大塚高校の記念同窓会は一味違うパイ。出席して本心に良かった、次回は是非出席したい」と言われる公に盛り上げようではないかと、一月より再三幹事会を開催しました。

そして六月二十六日(土)午後六時三十分より、我々のホームグラウンドの「大塚屋」にて開催の運びとなったのです。

当日は生憎の雨模様にも関わらず、恩師の浅田先生、木下先生、同窓会本部より安藤会長、郡田、本村、吉岡の各顧問にもご出席いただきました。悪天候で心配していた出席も定刻にはほぼ全員揃い、五回生の絆の強さを改めて認識した次第です。両先生とも相変わらずお元気で、浅田師、木下師で久しぶりの講義をいただきました。また、当日出席の藤原君のご息子がホークスで活躍中のあの藤原投手であり、藤原君より「更なるご支援を」と挨拶がありました。それぞれ久しぶりの再会に豪華な料理に手をつけるのも忘れ、アツとぶう間の二時間で、当日記念写真として配った別注ホーム入りのマップがなオリジナルスポケットオルがとて好評でした。

最後に全員で校歌を合唱、そして母校・同窓会の益々の発展を願って「博多手一本」で、お聞きとなりました。勿論、二次会、三次会も……。末尾となりましたが両先生、同窓会本部の皆様、ご多忙の中のご出席有難うございました。

(第五回卒 村上敬道)



第5回生退席同窓会
平成11年6月26日大塚屋(博多東中洲)

第八回(商業科)の会

昭和三十六年第八回商業科卒業(六・七・八組)の同期会を、平成十一年三月二十一日(日)博多区「八仙園」にて、ご来賓に担任の木下先生(七組)、山形先生(八組)のお二人をお招きして四十人の参加のもと、卒業三十七年後の同期会を盛会のうちに開催。六組担任の「浜ちゃん」こと浜野先生がご逝去されてお姿が見えず残念。

出席者がもう一歩という感がありましたが、卒業後三回目となるこの会、初めての人も「あんだだれやったかいな」といわれながらも、楽しい出合いのひとときを、過ごすことができました。

次回から毎年会おうという意見や先生の「正希」のお祝いをしよう等の意見が出され結局六十歳の「福寿」の頃、再会することになりました。

最後に八回生で統一地方選挙(福岡市議会議員(博多区))に、二期目の出馬をする六組の鬼塚敏満君の当選を祈って激励しました。同じく八回生普通科の中原貞君(東区)についても応援することといたしました。八回(應生)の皆さん、次回はぜひ多数の参加をお願いします。

代表世話人 白川 徹(八組)

第九回卒業の同窓会

さて、私たち、九回生が大塚高校を卒業してからはや三十数年になります。毎年五月の第三土曜日に開催される卒業生全員の同窓会(定期総会)には、毎年九回卒有志十数名が参加しておりますが、未だ九回生だけの同窓会は自慢ではないのですが、一度も開催されたことはありませんでした。

これではいけないと、有志十数名が発起人となりまして、平成七年八月より、このプランクを理め同級生の同窓会の方向性を見出すため、休日返上で検討しました。しかし、長期間のプランクは大変な事でした。大半の方が住所がわかりません。まず九クラスの中から福岡市近郊在住者十八名をピックアップし、その方々に同窓会世話人となってもらい、はがき、電話攻勢で住所確認を行いました。そして平成九年四月十九日(土)、第九回卒業生の記念すべき第一回同窓会を開催することに決定しました。

会場は博多駅の八仙園でした。遠方からの友を迎えるのに都合がよいからです。三十五年の空白で、参加者が少ないのではないかと懸念しておりましたが、東京、愛知、大阪、南は沖縄、熊本と遠方からの参加者もあり、特にありがたく思いました。そこで、恩師の先生方と同窓会本部の役員の方々を招き、〇〇名の参加のもと初の同窓会が盛大に行われました。

三十五年來の再会におたがいの活躍ぶり、家族、学生時代の思い出、体型(肥満)話など、二次会、三次会と夜を徹して行われたと聞いております。要は、空白があっても大塚高校魂が一致団結を引き起こしたと思っております。「今日も生涯の一日なり」をモットーにその後も毎年同窓会を開催

し、今年には四回生の同窓会を計画しております。世話人の方も毎年忘年会と新年会を行って親睦を深めておりますし、第九回卒業生は皆元気に公私共頑張りしております。

(第九回卒 城川政憲)



第9回卒業 35周年同窓会 平成9年4月19日(土)

第十回生三八会

「ミレニアム」直訳すると「千年間」という意味らしいですね。そのミレニアムのお然りがいつ行われるのが正しいのか、諸説紛々々のようでありませんが、英王立のクリニッジ天文台によると、〇一年一月一日が新千年紀の開始らしいです。原因は西暦を作ったローマの修道士で天文学者のエクスグウスが最初の年を「ゼロ」から始めず「西暦一年」としたことにあると言われているのですが、この是非はさておき我々が「三八会」のメモリアル?のほうで、ミレニアムよりも重大なことです。にもかかわらず「三八会」の三十五周年記念同窓会の記事を昨年掲載できなかったことを